

小又峽散策の安全対策について

(1) 小又峽の特徴と散策行動

名称及び天然記念物の小又峽は、V字状に浸食された全長約6kmの渓谷です。その集水域は約7,000haに及び、全域が火砕流大地（溶結凝灰岩）の1枚岩盤のため、強雨になると数十分で増水する特徴を有しています。

ぐるっと森吉山の山域は景勝地があまたに存在することから、雨天などで森吉山のピークハントが望めない時は、奥森吉は雨のブナ林や渓谷巡り、奥阿仁は豪快な瀑布を体感するため積極的にフィールドを変更します。特に小又峽への変更は、個人や旅行会社を問わず一般的な行動パターンとなっています。

(2) 小又峽歩道の危険性

小又峽散策に伴う死亡事故は、過去40年余りで歩行中や写真撮影時の滑落などで5名と遊覧船からの転落が1名、他に沢登り等で3名の方がすでに亡くなっています。

2019年10月8日、ガイド1名とツアー参加者1名の方が増水による渡渉時に流され溺死するという水難事故が初めて発生しました。一本の渓谷でこれまでに11名の死亡事故が発生していることは、全国的に見ても特筆すべき場所であると言えます。

当協会のガイドは、過去の滑落事故や渡渉時の水難事故に対応するために、最低20mのザイルを携帯します。この度の水難事故は、ツアー参加者からの聞き取りによれば、上流に向かうとき歩道に水はまだ流れていなかった。帰りに増水した歩道を渡渉する際に転倒し流された。という証言から入渓判断の検証もさることながら、ガイドがザイルを携帯していなかった為に起こった水難事故である可能性が大きいと思われます。

雨天時の小又峽散策の安全対策は、旅行会社のツアー催行基準やガイドの練度とザイル等の携帯対応にゆだねることになりますが、小又峽散策は増水の有無にかかわらず、常に転落や滑落によって死亡事故につながる可能性が極めて高い、森吉山麓で最も危険な場所であることの認識が必要です。

(3) 小又峽歩道の現状

小又峽栈橋から約1.8kmの地点にある小又峽のシンボル三階滝までは、秘境散策を目的に橋や歩道を経年整備。歩道の約1.3kmは一枚岩盤を掘削した幅1.0mの歩道で、残り約0.6kmは自然の河床を自由に歩く開放型区間（今回の水難場所）となっています。

今回の水難事故地点の自然河床は流れに沿って50m、幅7~10mの平面地形の1枚岩盤です。通常の流水面と河床歩道の高低差は50~60cm程しかないため、6月の融雪季は雨天時に限らず常に流水しており、午後は長靴でなければ渡渉できないほど増水します。このような開放型河床歩道が千畳敷から穴滝上流まで500m程存在します。

また、岩盤掘削歩道の上部コンクリート面は劣化が進み、幅30cm以下の危険

箇所が随所に見られるとともに、歩道からダム湖水面や溪谷の深淵までの落差は5~15mに及ぶが手摺や防護ネットはありません。それは景観上の配慮というよりも、冬季間の雪崩と積雪がくさび状に溪谷を埋め尽くすため、すべての安全対策は事実上皆無に等しいからです。したがって、小又峡散策路は一般の歩道（登山道）であって、不特定多数の一般ビギナー客を対象に整備した、手摺や防護柵やネットなどを巡らした探勝路（遊歩道）ではないのです。

（４）小又峡散策の安全喚起

安全な小又峡散策を楽しむため、増水の見極めや歩行時における基本的な留意事項をまとめたのでお役立てください。

１）増水の予想判断

①融雪期（６月～６月中旬）

- 前日に豪雨になると溪谷は一夜にして50~100cmも大量増水するので入溪は100%困難です。
- 雨が降らなくても、晴天時は融雪が加速し、午後からは間違いなく通常水位の2倍以上増水するため、千畳敷の飛びブロック歩道や開放型河床歩道は冠水状態になり、トレッキングシューズでの歩行や渡渉は困難です。

②その他の季節（６月中旬～１０月末）

- 大雨注意報や警報発令時は局所的に強雨が降るので、現地が小雨でも上流部の強雨により時間差で増水する傾向があるため入溪を自粛しましょう。
- 低気圧に寒冷前線が伴う報警報発令時は、一時的に大増水するので入溪はやめましょう。
- 現地で雨が降っていないなくても、局所的に強い雨が降って、川の流れに大量の葉っぱが混じりあってきた時は、間違いなく増水の前兆であるため、速やかに入溪を中止し冠水の恐れがない高い場所に避難しましょう。
- 増水し歩道が冠水した場合は、無理に渡渉しないように待機しましょう。
- 前日の雨で増水し、溪谷の水が腐葉土の色素で赤く変色していても、当日が曇りか小雨程度で推移すれば、過去の経験から現状以上の増水はないと考えても良いでしょう。
- 強雨であっても短時間であれば、雨が止むと1時間ほどで増水は収まる傾向にあますが、入溪の判断は天気情報の見極めが重要です。

２）散策歩道の落石と滑落注意

- 6月は融雪期に当たるので落石・倒木・枯れ枝の落下が多くなります。
- ここは遊歩道ではないので手摺や防護柵がないことを把握してください。
- 幼児や小学校低学年の走り歩きは滑落の原因になります。
- 歩道自体が狭いので「すれちがい」時の転落にご注意ください。
- 溪畔での写真撮影時は滑落に充分ご注意ください。